

図 4 凍結保存試験の要約

II フィジー産ワムシの培養試験

当支場が昭和 62 年 9 月 4 日に日本栽培漁業協会八重山事業場から分譲されたフィジー産ワムシは背甲長 $146.3 \pm 8.2 \mu\text{m}$ ($114.3 \sim 166.3 \mu\text{m}$), 甲幅 $124.7 \pm 7.6 \mu\text{m}$ ($97.8 \sim 142.2 \mu\text{m}$) の大きさで、シオミズツボワムシの S 型 (以下 S 型ワムシと略す) に酷似するが、さらに小型のワムシである。(写真 1~4)

この種の同定はまだなされていないが、一見して被甲後部が S 型ワムシに比べて幅広く、後頭棘 6 本のうち外側 2 本は外方へ開く傾向がある。フィジー産ワムシと S 型ワムシの背甲長及び甲幅の組成の比較を図 1 に、背甲長と甲幅の関係の比較を図 2 に示した。

この種は昭和 61 年度に当支場内の水槽から採取・分離したユビナガチビワムシ *Colurella adriatica* EHRENBERG (背甲長 $70.4 \sim 99.5 \mu\text{m}$, 高さ $41.3 \sim 63.1 \mu\text{m}$) より大型ではあるが、ユビナガチビワムシと同様に卵径及びふ化仔魚が小さい魚種の初期餌料に適した餌料と考えられたので、この種の培養手法について検討することにした。

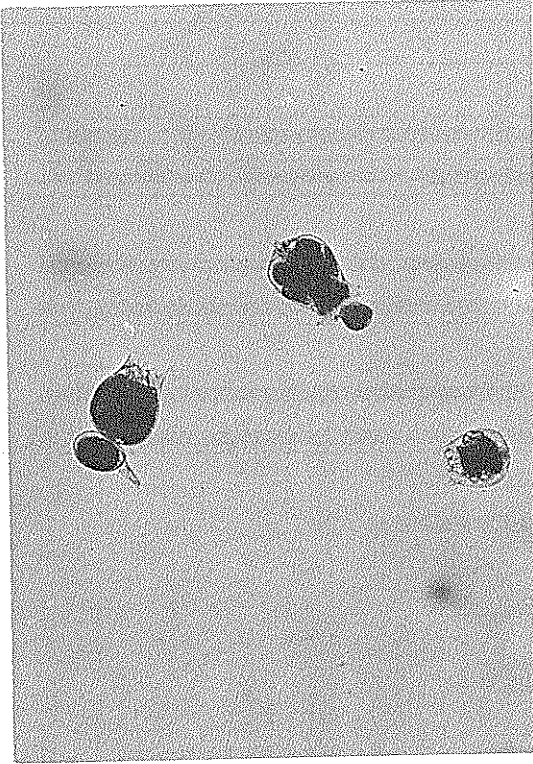


写真1 フィジー産ワムシ(×100倍)

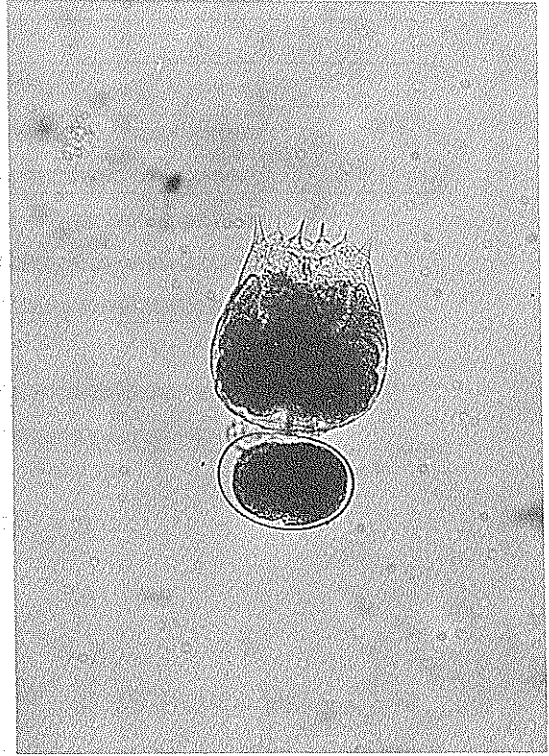


写真2 フィジー産ワムシ(×200倍)

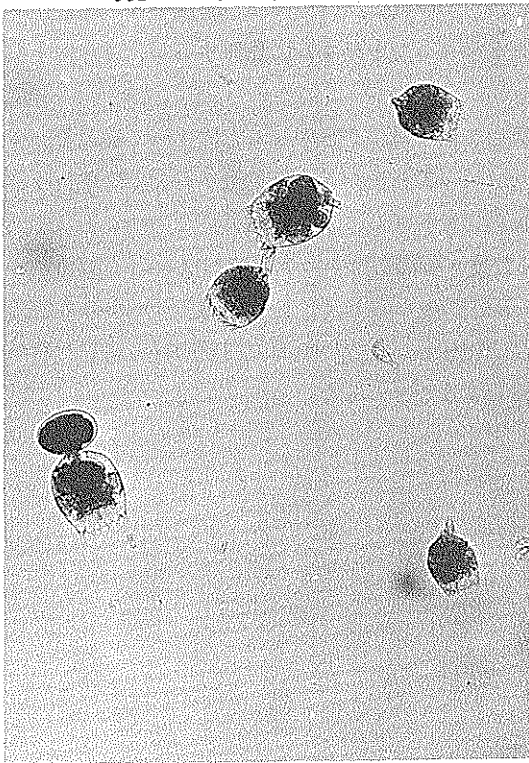


写真3 シオミズツボワムシ(S型)(×100倍)

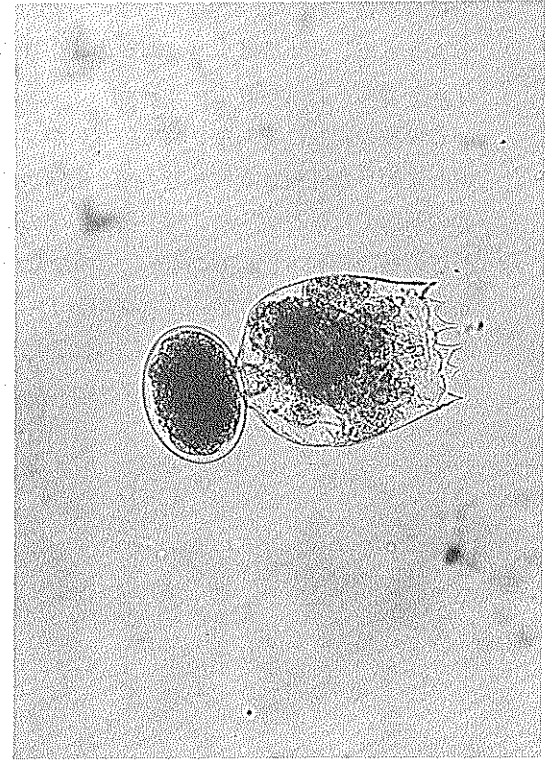


写真4 シオミズツボワムシ(S型)(×200倍)

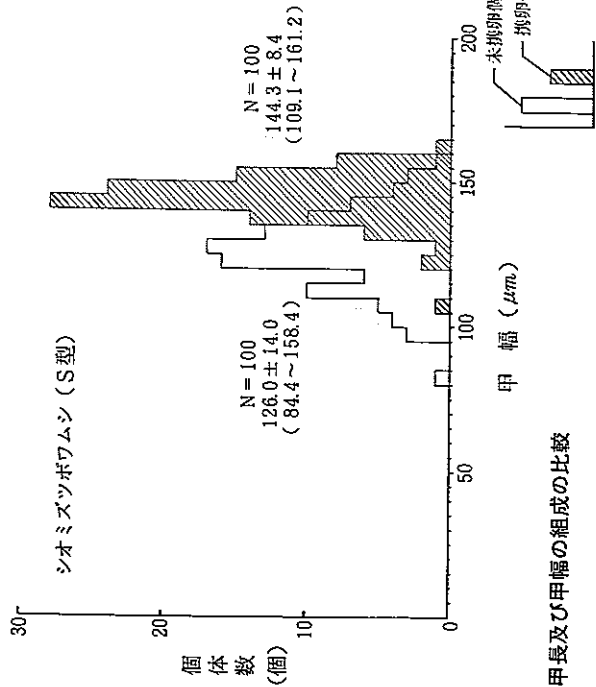
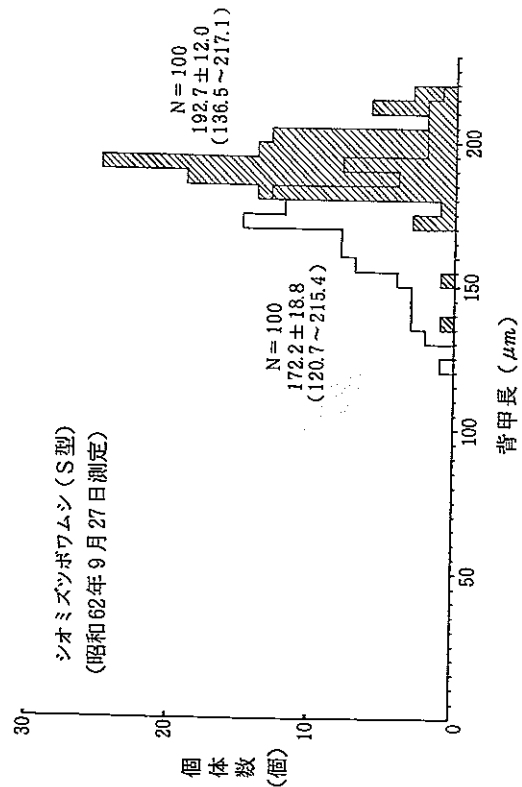
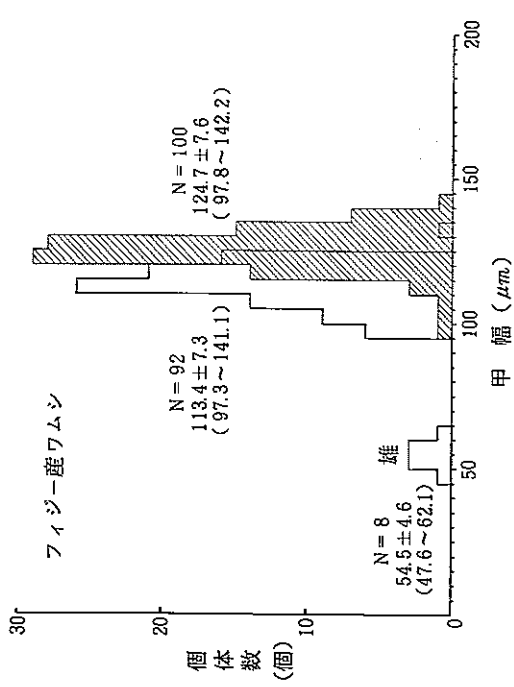
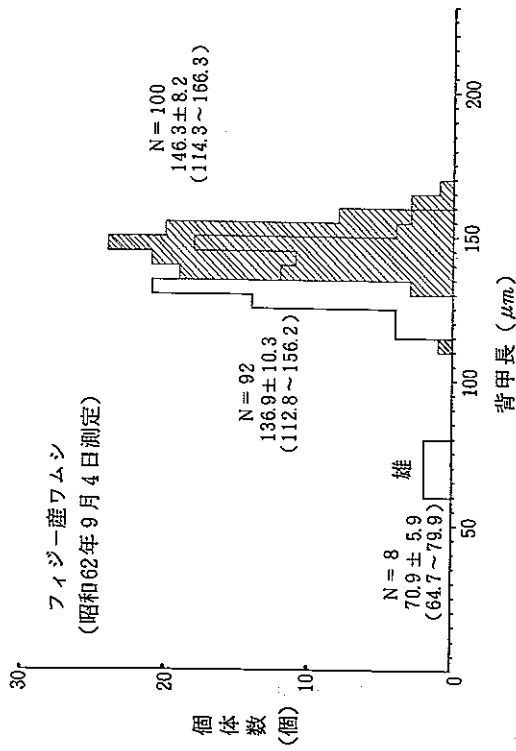
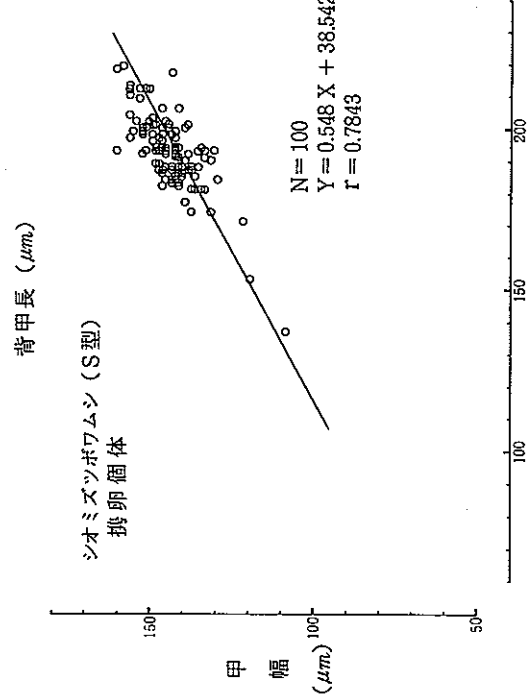
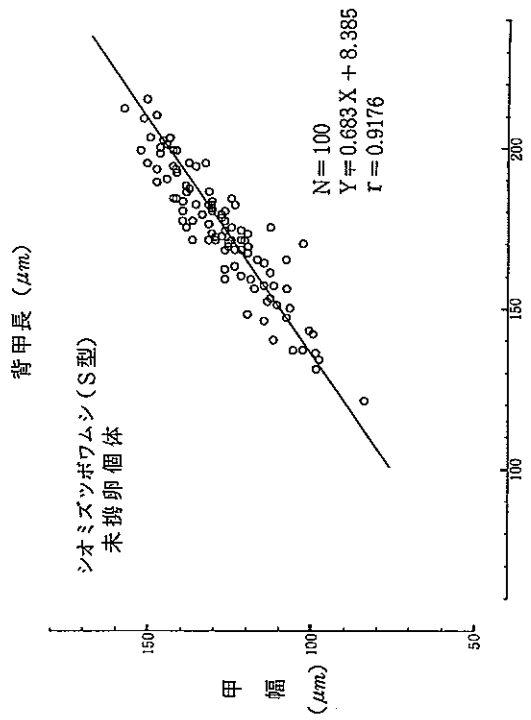
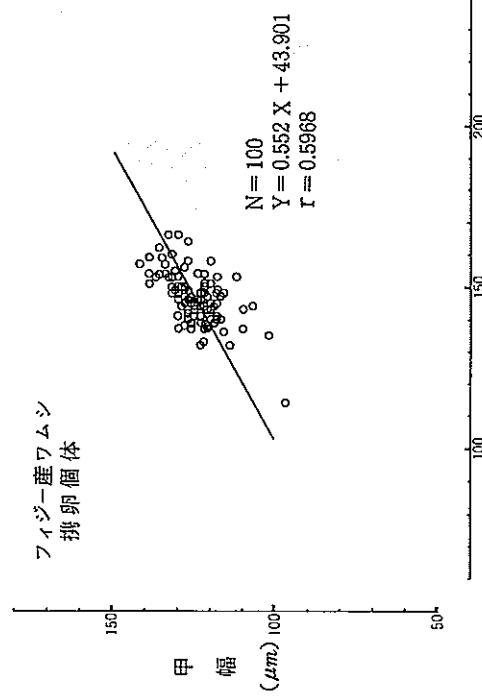
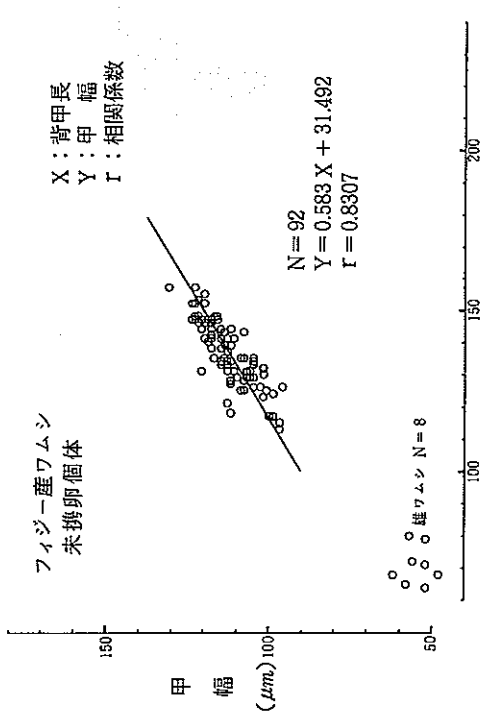


図1 フィジー産ワムシとシオミズツボワムシ (S型) の背甲長及び甲幅の組成の比較



背甲長 (μm)

背甲長 (μm)

図2 フィジー産ワムシとシオミズボツワムシ (S型) の背甲長と甲幅の関数の比較